稀本零葉

特別
41
1936

門 41
號 1936
卷

一、大般若經　春日版

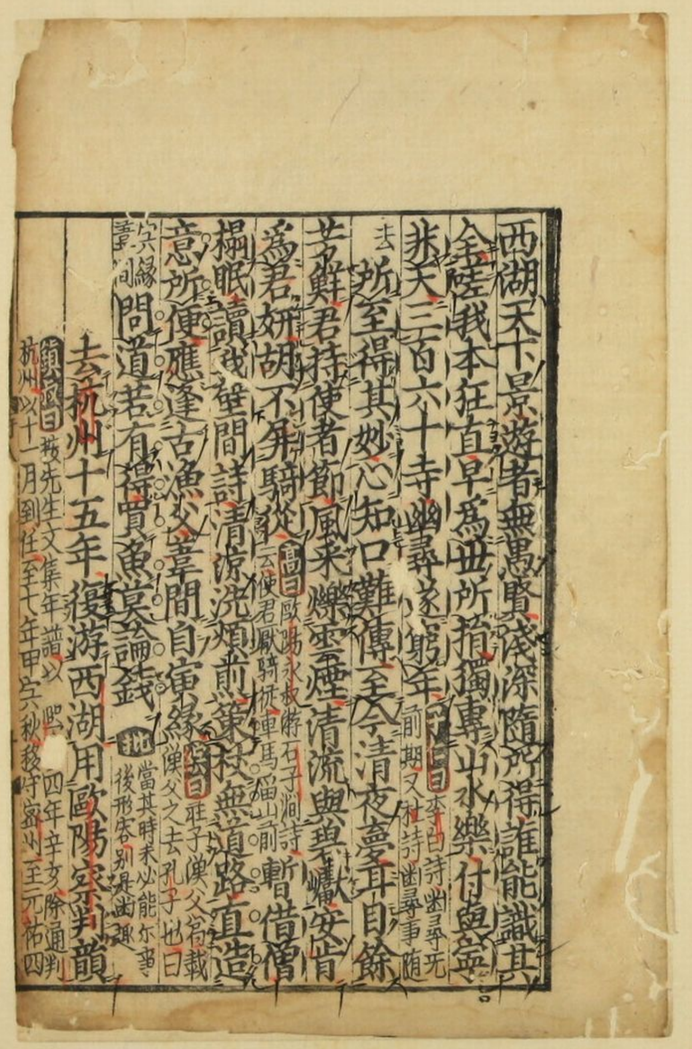
大般若波羅蜜多經全六百卷中の零葉で刊行年は明かでありませんが、版式紙質等から見て、足利初期、應永前後のものと考へられます

春日版としては末期のもので、墨色も書体も紙質も可成劣るものになつてゐます。此の項は粘装のものが大分多くなつてゐますが、これは元来の巻子本です。

昭和二七年二月一三日 購求

京都帝國大學圖書館

无所有以內空故乃至无
性自性空故舍利子菩薩摩訶薩五十九聖諦无所有集滅道
聖諦无所有以內空故乃至无性自性空故
舍利子无明无所有行識名色六處觸受愛
取有生老死憂愁歎苦憂惱无所有以內空故
乃至无性自性空故舍利子貪瞋癡无所有
法見趣无所有以內空故乃至无性自性空



西湖天下景遊者無愚賢淺深隨所得誰能識其全陸我本狂直早爲世所指獨專出水樂付與魚兆天三百六十寺幽尋多窮年（李白詩對子尋元前期又付詩幽尋事隨去）所至得其妙心知口難傳至今清夜夢耳目餘芳鮮君持使者節風采爍雲煙清流與碧巘安皆爲君妍湖不知騎從（白居易使君獻騎從車馬稱山前）榻眠讀我壁間詩清淚洗煩前策杖無道路直造意所便應逢古漁父喜聞自寅緣（白莊子漁父篇載孔子曰六緣司）問道若有得買魚莫論錢（北山當其時未必能尔著後形容別是幽趣）

去杭州十五年復游西湖用歐陽密判韻

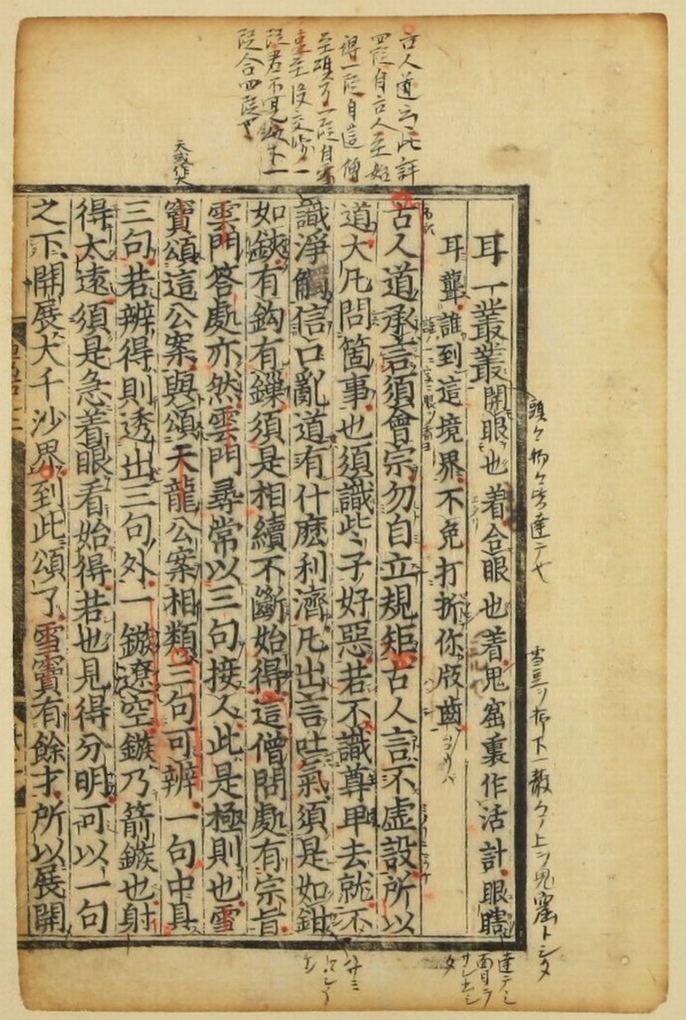
（與歐陽永叔游石子澗詩）（東坡先生文集年譜以熙寧四年辛亥除通判杭州以十一月到任至七年甲寅秋移守密州至元祐四）

一　王狀元集註　東坡先生詩集　五山版

完本は二十五卷二十五冊、配布の零本は卷八です。

此の書は刊記がありませぬので正確な刊行年は不明ですが、版心に陳伯壽等の刻工の名を刻してあるので、南北朝時代の刊行にかゝる事は明かであります。陳伯壽は當時遺米の支那人の刻工であります。版式は完全に支那風ですから、求版又は元版の覆刻でせう。

完本は近年市場に現れた事はないですが、賣價にして四五百圓以下ではないでせう。



古人道ヲ此評
罷自古人至如
得一段自這僧
至唯了一段自寄
重至及文殊一
段者不見級下一
段合四段ヘ

天或作天

耳聾誰到這境界不免打折你版齒

古人道承言須會宗勿自立規矩古人言不虛設所以
道大凡問箇事也須識些子好惡若不識尊卑去就不
識淨觸信口亂道有什麽利濟凡出言吐氣須是如鉗
如鎚有鈎有鏁須是相續不斷始得這僧問處有宗旨
雲門答處亦然雲門尋常以三句接人此是極則也雪
竇頌這公案與頌天龍公案相類三句可辨一句中具
三句若辨得則透出三句外一鏃遼空鏃乃箭鏃也射
得太遠須是急着眼看始得若也見得分明可以一句
之下開展大千沙界到此須了雪竇有餘才所以展開

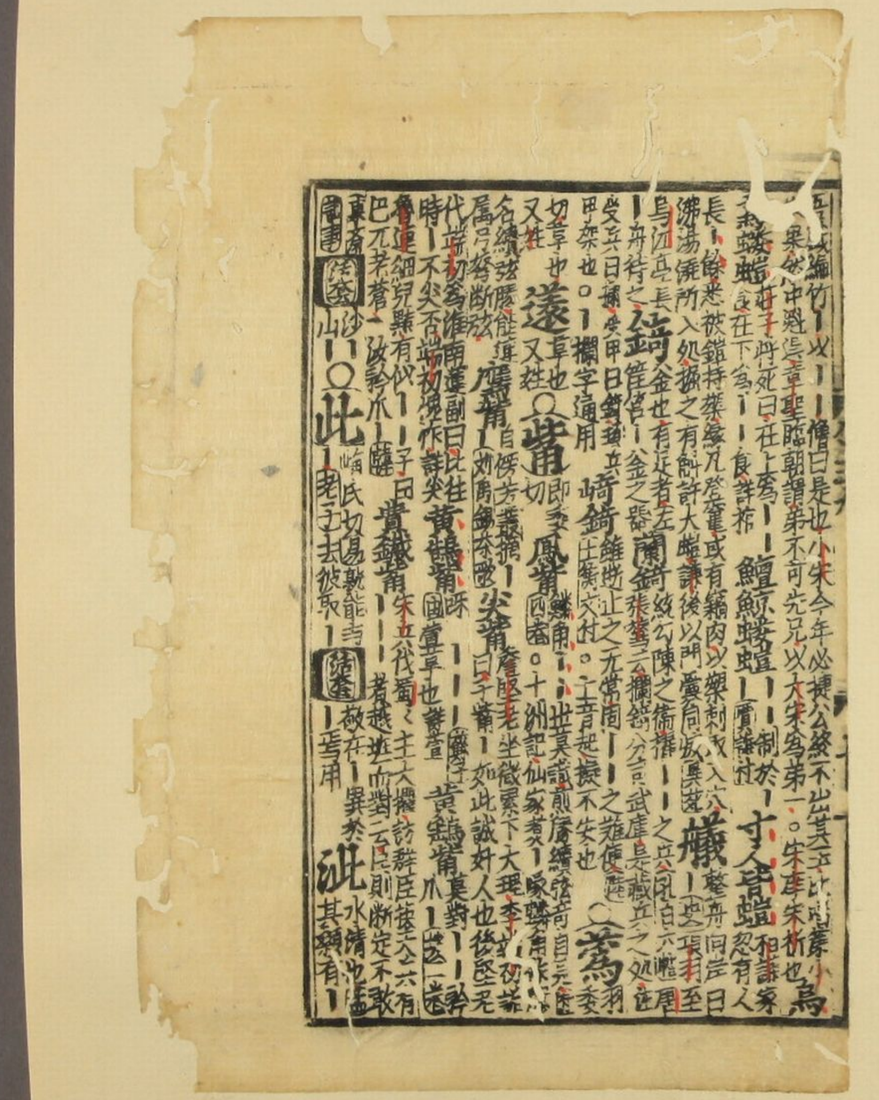
三、碧巖錄　五山版

完本は十卷五冊（又は十冊）配布の断片は巻の三です。元版の覆刻であります。碧巖錄（正確に記せば佛果圜悟禪師碧巖錄）は五山の僧侶の間で広く愛讀せられたゝめ、五山版中で最も多く刊行され、異版の数も恐らく十種以上に達するでせう。美濃の瑞龍寺版、能登の總持寺版等が比較的よく知られてゐますが、その他京都及び地方の諸寺院で屢々刊行されました。しかもその多くが有界、十一行・廿一字と云ふ殆んど同一の版式を取ってゐますので、一冊の零本によってどこの版であるかを推定することは甚だ困難であります。配布のものは多分京都建仁寺の僧玉峯の刊本で南北朝時代の出版にかゝるものでありうかと考へられます。

玉峯刊本として完全で二百円位の相場でせう。

四、韻府群玉　王山版

完本は二十卷二十冊、記而の際業は卷第九の内です。
刊行年は不明ですが版心に彫明長有尊の刻工の名があり、それ等の人々が南北
朝時代の人であるために本書も南北朝時代の刊にかゝる事が明かであります。
完本は近來市場に出ませんが、四五百円位のものでせう。



以盡主人之禮因從容問曰天神之孫何以辱臨乎

一云頃吾兒來語曰天孫憂居海濱未審虛實蓋有之乎彦火々出見尊具申事之本末因留息焉海神則以其子豐玉姬妻之遂纏綿篤愛已經三年及至將歸海神乃召鯛女探其口者即得鉤焉於是進此鉤于彦火々出見尊因奉教之曰以此與

鉤ノ鈎

五、日本書紀

史本は三十卷十五冊、所載の零本は卷の二です。「日本書紀」の最古の版本は慶長四年の後陽成天皇の勅版本でありますが、之れは神代卷二卷だけである事は御承知の通りです。完本としては慶長十五年洛網野子三白の跋のあるものを最古としますが、寛永までには別版が數種刊行されました。本書はその中の一種で、慶長頃の刊行にかゝるものでせう。慶長十五年版と比較しますと印刷面は幾種共に約五六分づゝ小さくなつて居り、一行の字詰も二字（五年版の十八字詰に對し本書は十六字詰）少くなつて居ります。用ひて居る活字も別のものであると認められ、柱書の体裁も違つて居ります。尤も、神代卷だけの單行らしく、傳本は甲乙の慶長十五年版よりも稀れでありまして、書肆の目錄、入札等でも余り見掛けませぬが、價値も價格も彼れに劣る事は申すまでもありますまい。

六　萬葉集　無訓本

完本は二十卷二十册、配布の零本は卷の九、又は十です。判記がありませんので刊年は不明ですが、慶長年間の刊行であると信じられて居ります。萬葉集の最古の版本として尊ぶべきであるのみならず、内容も流布本と若干系統を異にして居て宝んずべきものであります。用ひて居る活字は伏見版の活字を用ひて不足のものだけを新しくつくつたものであるとの事です。

傳本は最も稀れとして喧傳して居りましたが、近時研究家の捜索によつて可成幾部か傳存して居る事が知られました。昭和十三年の表部其善氏の古書目に本書の完本が七百五十円と記載されてゐます。

反歌

搔霧之雨零夜乎霍公鳥鳴而去成阿怜其鳥

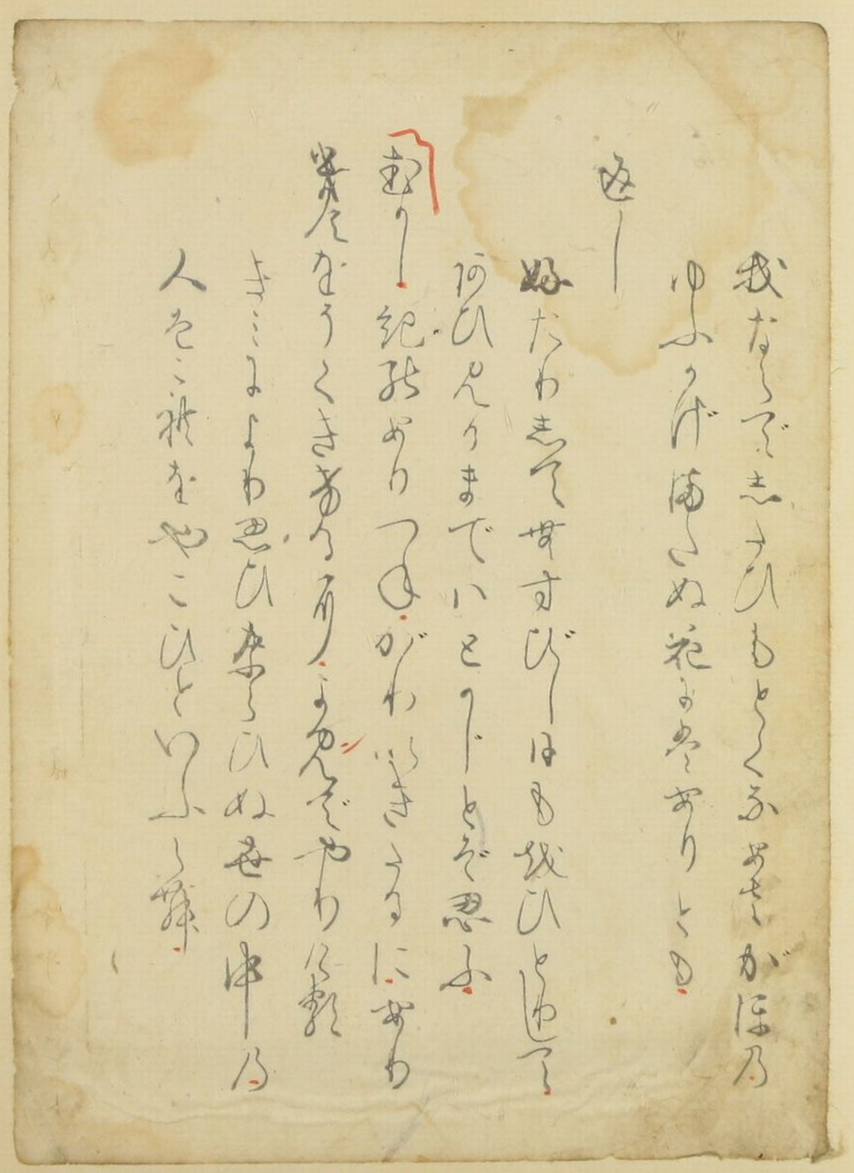
登筑波山歌一首并短歌

草枕客之憂乎名草漏事毛有武跡筑波嶺爾登而見者尾花落師付之田井爾鴈泣毛寒來喧奴新治乃鳥羽能淡海毛秋風爾白浪立奴筑波嶺乃吉久乎見者長氣爾念攄來之憂者息治

七、伊勢物語　光悦本

完本は二巻二冊、所載の零本は下巻です。慶長十三年の刊行にかゝり、也足堂素然則ち中院通勝の自署のある本であります。用紙は薄く美粉を引いた色紙りの紙を用ひて居り、保存の良い本です。

昭和二三年頃は六七百圓の賣價を附した目錄がいくつも見られましたが、今日ではよい本で二三百圓、復刻の悪本或ひは覆刻整版本なら五色紙の相當な本でも百圓以下で手に入りませう。

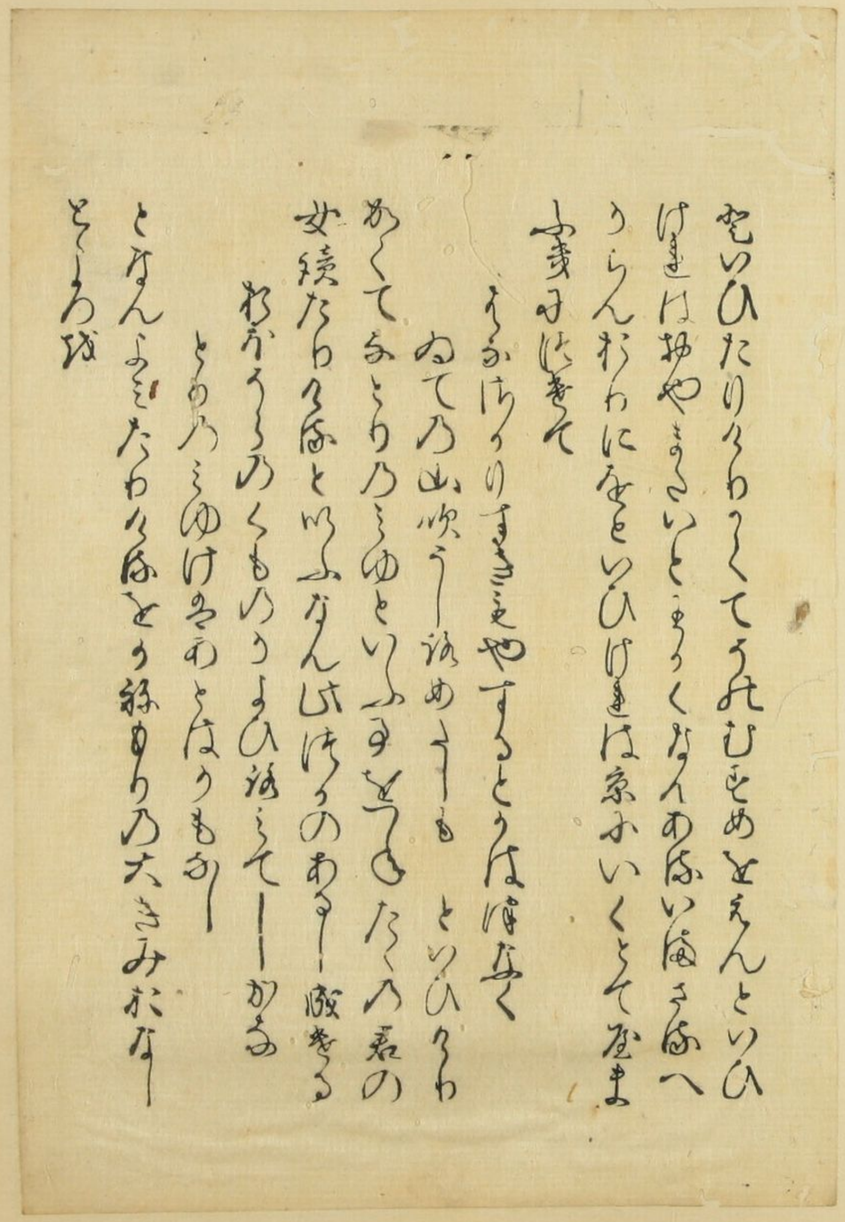


八、大和物語　古活字版

写本は二巻二冊、配布の写本は上巻です。

刊記のない本ですので刊年は不詳ですが、元和頃の刊行であろうとされて居ります。二種あるひは三種の活字を混用して居ります。本書は十二行本ですが、仝じ平假名交りの古活字版で十一行のものがありますが、これは十二行本に先立って慶長元和中に版出せられたものと思はれます。又本書と仝じ十二行本で柱書のあるものもありますが、これは寛永末年の刊行と信じられて居ります。内容はいづれも同様であります。

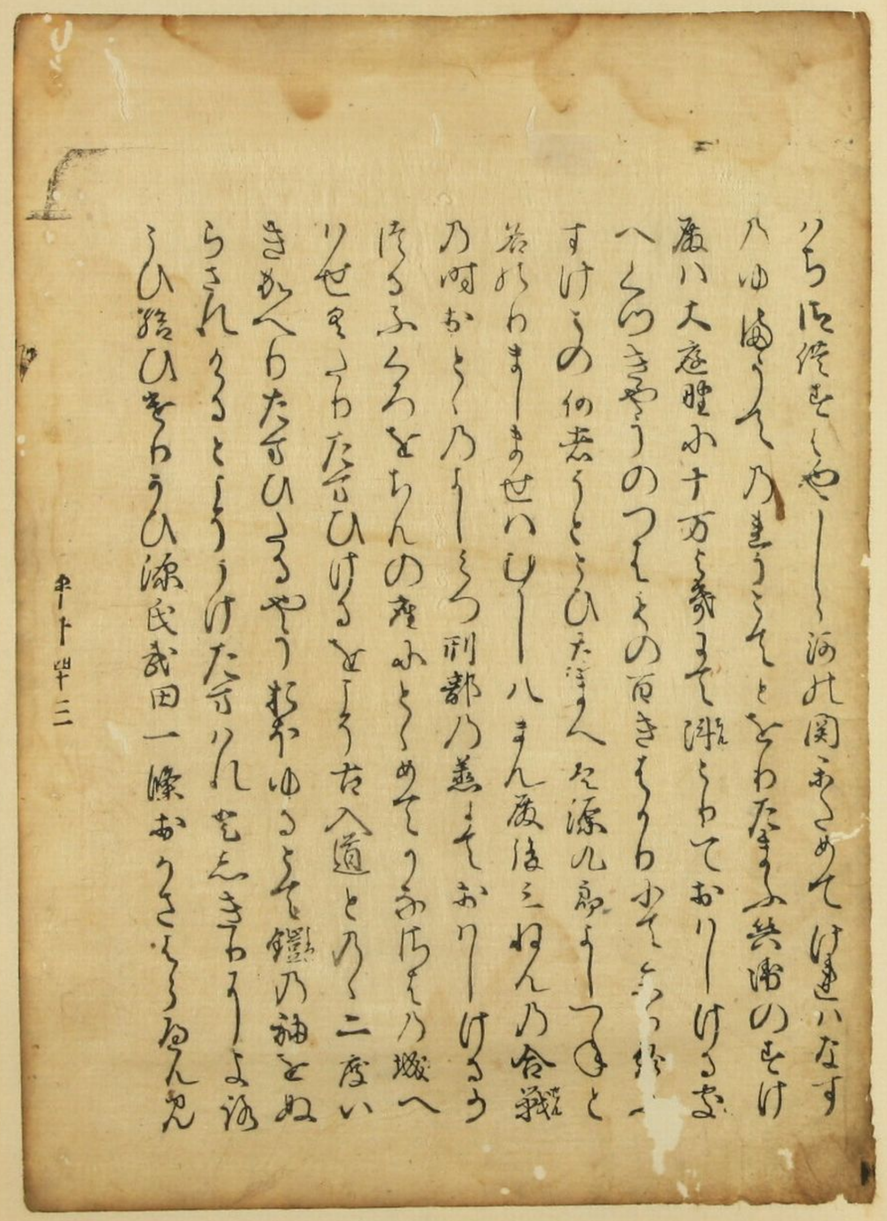
昭和二年の市島氏の入札にはセ十八円で落れと出、昭和十三年の東京の某書肆の目録には九十円と出て居ります。



九、平治物語

現本は三卷三冊、所載の零本は卷の上　刊年は不詳です。平治物語の古活字版中には十行本、十一行本、十二行本の三種がありますが、各々又幾版もあります。其の中本書は元和寛永中の刊行にかゝるものであらうと信じられます。濁り點及び振假名のついた活字を挿入に混用して居ます。零本は仲々稀覯で現本の知られて居るものは三部だけでありません。

昭和九年東都某書肆に見受けた一本は、同樣の保元物語と共に大冊揃つた美本で二百八十圓の賣價でした。



一〇、平家物語

現本は十二巻十二冊、所載の原本は巻十であります、刊年は明かでありません。平家物語は古活字版中最も種類の多いもの〻一で、恐らく版の異るものが十指を屈し得べく、同版中の異極字版を算へれば、十数種にも達しませう。此の版は多分元和頃の刊行と思はれますが、傳本は比較的少い様です。殆んど全く版式を異うして唯四周の辺のみを異にして居る別版（本書の畢辺に對して双辺）がありますが、補闕性に於ては本書が勝って居る様です。

同種本の掲げられた販賣目録その他は近頃見受けませんが二百円位のものでせうか。

在廳成景ハ京ノ者熱根賤キ下膳ナリ。コンデイ童モシハ格勤者ナトニテモヤ有ケンサカくシカリシニ依テ院ニモ召仕ハレケルカ師光ハ左衛門尉成景ハ右衛門尉トテ二人一度ニ勅負尉ニ成又信西事ニ逢シ時二人共ニ出家シテ左衛門入道西光。右衛門入道西敬トテ此等ハ出家ノ後モ院ノ御倉預リニテソアリケル彼西光カ子ニ師高ト云者有リ是モ左右ナキ〻ノリ者ニテ撿非違使五位尉迄經上リテ剰安元々年十二月二十九日追儺ノ除目ニ加賀守ニソナサレケル國務ヲ行フ間非法非禮ヲ張行シ神社佛寺權門勢家ノ庄領ヲ没倒シテ散々ノ事共ニテソ有ケル縱召公カ跡ヲ隔ト言トモ穩便ノ政ヲ行ヘカリシカ角心ノ儘ニ振舞間同二年夏ノ比國司師高カ弟近藤判官師經ヲ加

力拔山兮氣蓋世時不利兮騅不逝騅不逝兮可奈何虞氏
兮虞氏兮奈若何
ト悲歌忼慨ノ項羽泪ヲ流シ給シカハ虞氏悲ミニ堪兼テ則自
劔ノ上ニ伏シ項羽ニ先立テ死ニケリ項羽明ル日ノ戰ニ二十
八騎ヲ伴テ漢ノ軍四十萬騎ヲ懸破リ自漢ノ將軍三人カ首
ヲ取テ被討殘タル兵ニ向テ我遂ニ漢ノ高祖カ爲ニ被亡ヌル
事戰ノ罪ニ非ス天我ヲ亡サントト自運ヲ計テ遂ニ烏江ノ邊ニ
ノ自害シタリシモ角ヤト被思知テ泪ヲ落サヌ武士ハナシ南方
左近將監時益ハ行幸ノ御前ヲ仕テ打ケルカ馬ニ乘兼北方
越後守ノ中門ノ際ニテ打寄セテ主上早寮ノ御馬ニ被召テ
候ニケトヤ長々敷打立セ給ハヌソト云捨テ打出ケレハ仲時無
力鎧ノ袖ニ取著タル北方少キ人ヲ引放ノ縁ヨリ馬ニ打乘リ

二、太平記

古活字版

完本は四十卷二十冊（或ひは此の外に目錄一卷）折載の零本は巻の九です。
本書と類似の版式を持つものに、寛永元年の刊本がありますが、これは慶長十四年版であります。その刊記は

慶長巳酉年鶴月觀望存庵誠　　才賀刊之

となつて居ります。太平記の古活字版も平家物語に負けぬ程に種類が多く、同じく十指を屈し得べきでありませう。一体に十二行本が多く、十行本は少い様です。明かに刊記のある最古の版は慶長八年版の富春堂版（片假名交り十二行本）で、同十年版、同十四年版、同十五年版等刊記のあるものだけでも五種或ひはそれ以上を擧げる事が出來ませう。此の版は太平記の平假名交り本として注目すべきものであります。

濃り爽のついた活字を用ひて居ります。

廿九日　庚子　御所北御壷搆切立皆被用松是所被
充催人云也所謂北條五郎和田左衛門尉三浦兵衛門
尉義村山口二部有綱各用意二本被採用之紀内行景
見其能惡立之間依嫌申有綱分有綱殆變顔色云數本
之中限有綱所進嫌申所存之企尤以不審京下輩多有
如此事不當々々云云行景不及返答連立之畢

閏十月小

一日　壬寅　今日於由比浦有列笠懸會射手十騎也
十三日　甲寅　將軍家招請鎌倉中諸堂僧侶於營中
今饗應給
十五日　丙辰　諸國守護人等奉行事兼日被定置之
外動相交他雜務之由聞其訴出來仍今日有沙汰事實

一二、吾妻鏡　古活字版

完本は五十二卷、五十一冊、所載の零本は卷の廿七等です。
刊記はありませんので刊年は不明ですが、その版式から見て、慶長十年刊の伏見版本錦（目錄の末に「富春堂新刊」と印刷した版本）を覆刻したものであらうと思はれ、行間の罫かないのみで、行數字詰等は全く伏見版と一致して居ります。慶長中の出版にかゝるものでせう。
昭和六年の秋葉義之旧藏書の賣立にはかれ元版（蟲損多し）が七百円に落札されました。

弊士力疲弊則將孤衆特以守則不固以戰則奔北是謂老兵
兵老則將威不行將無威則士卒輕刑士卒輕刑則軍失伍軍
失伍則士卒逃亡士卒逃亡則敵乘利敵乘利則軍必喪
大將ト云モノハ一軍ノ統領也兵ノ權柄ヲ總取威勢ヲス
ルハ大將ソ戰ノ功ヲナシヤリヲシ敵ヲ打勝フヲスルハ
軍卒力也講ニ强弱所示行陣所列皆將之所以統軍持勢也
鑿鋒陷陳戮力就列皆衆之所以制勝破敵也韓信井陘之役
背水之陳旗鼓之役固信之權也至於死戰不可敗則衆之所
為也非信獨能也此制勝破敵所以又在衆雖然料敵制勝上
將之道而此以制勝破敵歸之衆者蓋將所以用衆而衆則為
將所用故制之之力在於衆而制之之術則在於將故法又曰
將能制勝將固可以統軍也　故礼ノ礼ヲ亂リ道ニクライ
大將ソソノヤヲ十者ニ軍卒ヲ久モ千マホラセ成敗シナ

一三、黄石公三略　秘鈔　古活字版

完本は三卷三冊、配布の零本は卷上の内です。
刊年は明のでありませんが、多分慶永年中の刊行でせう。
版式はあまりよく整備してゐません。

戰權權者稱其輕重之宜也以彼已而稱之則其勝負可知矣前言戰參則參而用之此言戰權則權而用之或曰權變也謂權以制一時之宜

凡戰間遠觀邇因時因財貴信惡疑

用兵不可以無間用間不可以不善昔人以間爲下策非間之過也不善用也有間而不善用猶水之覆舟也故善間者用之以聖智使之以仁義得其實則以微妙是間爲難用也雖用間於遠必觀其所親近之人是以陳平間楚必有以中於鍾離昧文種間吳必有以遺於太宰嚭是皆觀其所親

一四、施氏七書講義　古活字版

完本は四十二卷十四冊（又は十八冊・二十冊等種々あり）
配布の零葉は卷廿十九です。刊年は元和七年であります。
元和版らしい感じのものです。完本の傳存は比較的少い様です。

海正義曰即廣州南海縣以適遣戍徐廣曰五十萬人守五嶺○正義曰適直革反廣州記五嶺者大庾始安臨賀揭揚桂陽輿地志云臺嶺騎田都龍朗諸越嶺也臺嶺赤塞上今名大庾西北斥逐匈奴自榆中徐廣曰在金城並河以東服虔曰並音傍依也屬之陰山徐廣曰在五原北○正義曰今勝州以為三十四縣城河上為塞又使蒙恬渡河取高闕正義曰山名在五原北兩山相對若闕甚高陶山北假中晉灼曰王莽傳云五原北上假膏壤殖穀北假地名也築亭障以逐戎人徙謫實之初縣索隱曰徙有罪而謫之初縣即上三十四縣是

實

一五、史記　古活字版

宅床は百三十巻三十冊、配布の原本は甚多大です。
巻末に刊記なく、従って明確な刊年は知られませんが、その版式及び或賢堂文庫蔵の同本の一冊の裏の墨書識語によつて慶長十一年以前の出版であると信じられて居ります。雲母模様の元表紙及び光悦風の雲の受遷装のあるものがあるので、俗に光悦本史記とも呼ばれてゐます。
数年前に東都の某文庫に納められたものは二百八十四であり、昭和十一年の故寺文庫の入札會に出たものは二百二十余冊で落札されました。

一六、王欽元奥註箋 東坡先生詩集 古活字版

完本は二十五卷二十五冊（外に紀年錄一冊を付ける事もあり）配布の零本は卷第四です。

蘇東坡の詩は我が國ではよく讀まれたので、古く南北朝頃の刊本があり（本解第二頁參照）その註釋書では「四河入海」（百卷百冊）の樣な大部なものさへ活字版で印行されました。

本書は刊記なく、刊行年は不明ですが、慶長年中のものと認められて居ます。

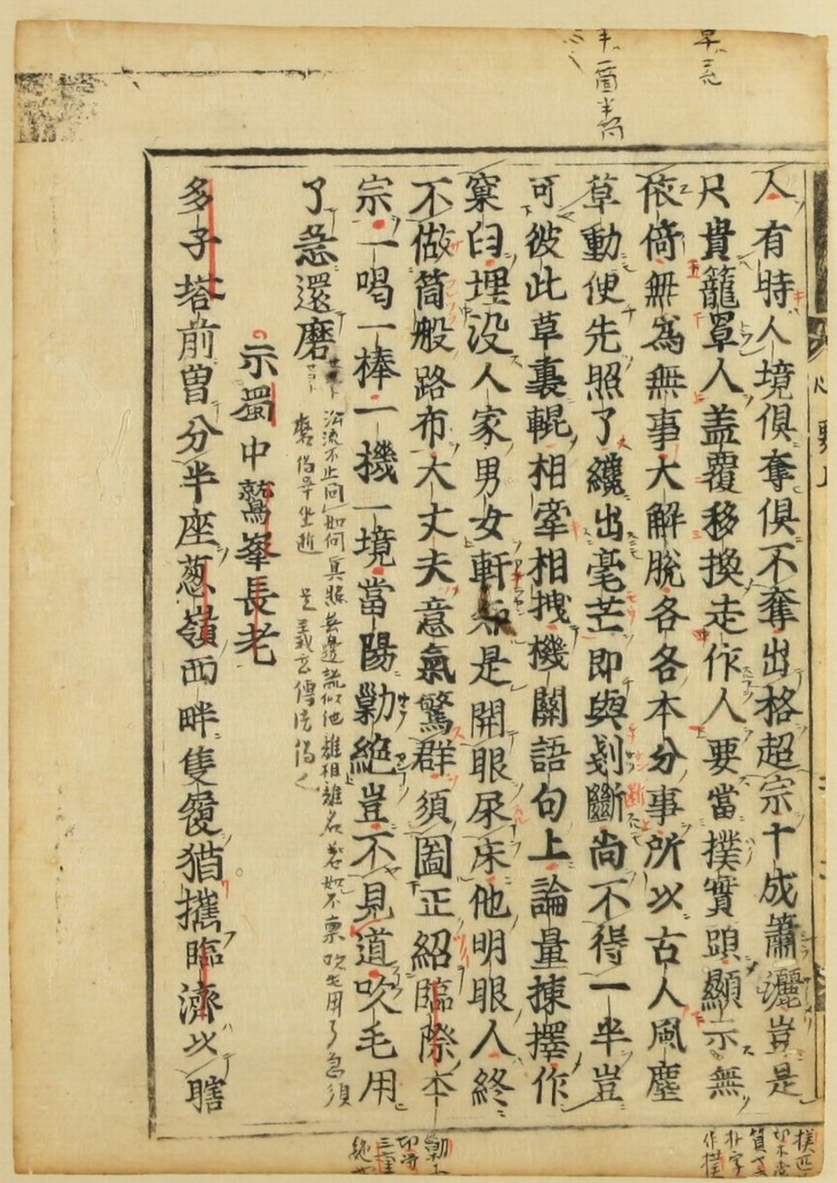
配布の零葉は上下きいくらか断ち落して、少し小型になつてゐます。

昭和十二年の東都琳書牌の目錄に大變ひ美本で二百五十円と出て居ります。

内猶雀藏餅中餅破則雀飛去矣師藏
經大智度論須云鳥來入餅中羅穀掩
餅口穀穿鳥飛去神識隨業走其卿佛
經云人身如瓶神識如雀五蘊既盡則
神識自去以手遮之且不可況以羅穀遮之可乎

四條深怕井中蛇

次公賓頭盧尊者爲優陀延王說
法經云如人行曠野爲象所逐見
一丘井即尋樹根入井藏上有黑白二
鼠互齧樹根四邊有四毒蛇欲齧其人
且云象喻無常丘井喻人身樹根喻人
命白黑鼠喻晝夜齧樹根喻念々滅四
毒蛇喻四大師佛書人有逃死者入井
則遇四蛇傷足而不能下上樹則逢二
鼠咬藤而不能升四蛇以喻四時二鼠
以譬日月言四爲時日月迫促大限無所
逃耳故釋子有無常偈云井底四蛇催
命促攀枝二鼠齧藤傷此是衆生命盡



人有時人境俱奪俱不奪出格超宗十成蕭灑豈是
只貴籠罩人蓋覆移換走作人要當撲實頭顯示無
依倚無爲無事大解脫各各本分事所以古人風塵
草動便先照了纖出毫芒即與剗斷尚不得一半豈
可彼此草裏輥相牽相拽機關語句上論量揀擇作
窠臼埋沒人家男女斬釘截是開眼尿床他明眼人終
不做筒般路布大丈夫意氣驚群須圖正紹臨際本
宗一喝一棒一機一境當陽勦絶豈不見道吹毛用
了急還磨

示覺中藏峯長老

多子塔前曾分半座葱嶺西畔隻履猶攜臨濟以瞻

一七、圓悟心要　ち活字版

標題は正しく記せば「佛果圓悟眞覺心要」で完本は二卷四冊　配布の零本は上卷の下であります

下冊がありませんので刊記の有無は解りませ予從って刊年は不詳ですが、版式から見て元和末又は寛永中の刊行と思はれますから、多分寛永三年京都にて出版のものでせう。

前って五六十円のものと思はれます。

短是非皆不知唯見勝而已是爲愚者語矣王者ノ語
智者ノ語愚者ノ語有ルニ三中ニ智者ノ語ハ可レ荅スル王者愚
者ノ語ハ不可荅ヘ也相上下ト者荅ハ居ル上ニ者聞者ハ有
レ下ニ者也智者ハ能ク勝負ノ分別スル者也王者放恣ノ若
夫レ違ヒ誅罰スル也愚者ハ唯タ無ク分別スル一唯タ勝ト計スル也
不談人過惡ト者上ノ頌スル不談他人好惡等ノ故ニ云
也　生人毒念ト者生スルト惡念ヲ云事也　懶惰ト者非
常ニ云義ニ無性ニ修行ニモノウク思テ懈ルハ云ニ懶惰ト也サテ
懈怠ハ且ク懈ル云也明日ノ所作ヲ成スヲ今日ニ云ニ懶惰ト
今日ノ所作ヲ作スヲ明日ニ云懈怠ト也　長行皆約止善
ト者止ルヲ惡ヲ修ルヲ善云ニ止善ト也是ハ對治悉檀也上ノ不

一八、科註妙法蓮華經鈔　古活字版

完本は十二巻十二冊、配布の零本は巻第五です。
巻末がないのでハッキリわかりませんが版式から見て比叡山版であろうと考へられます。若しそれならば刊記は
　　時寛永二乙丑暦極月下旬吉辰刊梓之
とある筈で寛永二年の刊行であります。
完本で三四十円のものと思はれます。

一九、百法問答抄　古活字版

完本は九巻九冊、配布の際本は巻第二です。近世初期に於ける高野版の一種で
僧淨善の開板にかゝり、元和九年の印行であります。

此事如下三住處記中　問有漏五八識及五俱意識及一切定心皆得自相云云分者得不可言自相欤將可言自相欤若不可言者不可言有爲自相是無漏後得智可緣也即如幻依他也有漏識體豈緣如幻乎若可言自相云者可言分皆是分別假智所緣都無其體五八等識是無分別也都不分別名等何轉可言境乎

答此事甚深也至下可知之變似我法處也　問付共相若言唯有行解都無境體者是可及計所執無法乎　答共相者諸法上自元有空無我等之義而起行解增益

二〇、天台四教儀集解　古活字版

完本は三卷三冊、配布の原案は下卷です。卷末の刊記は

此集解者以慈印板檢校本而重刊功畢于時

寛永元甲子歳次九月中旬

とありますから寛永元年の刊行です。「天台四教儀集解」の活字版には別く文版四年の刊本が知られてゐますが、本書は之れによらず、直接に慈本（明版大藏經の内？）から覆印した事がわかります。

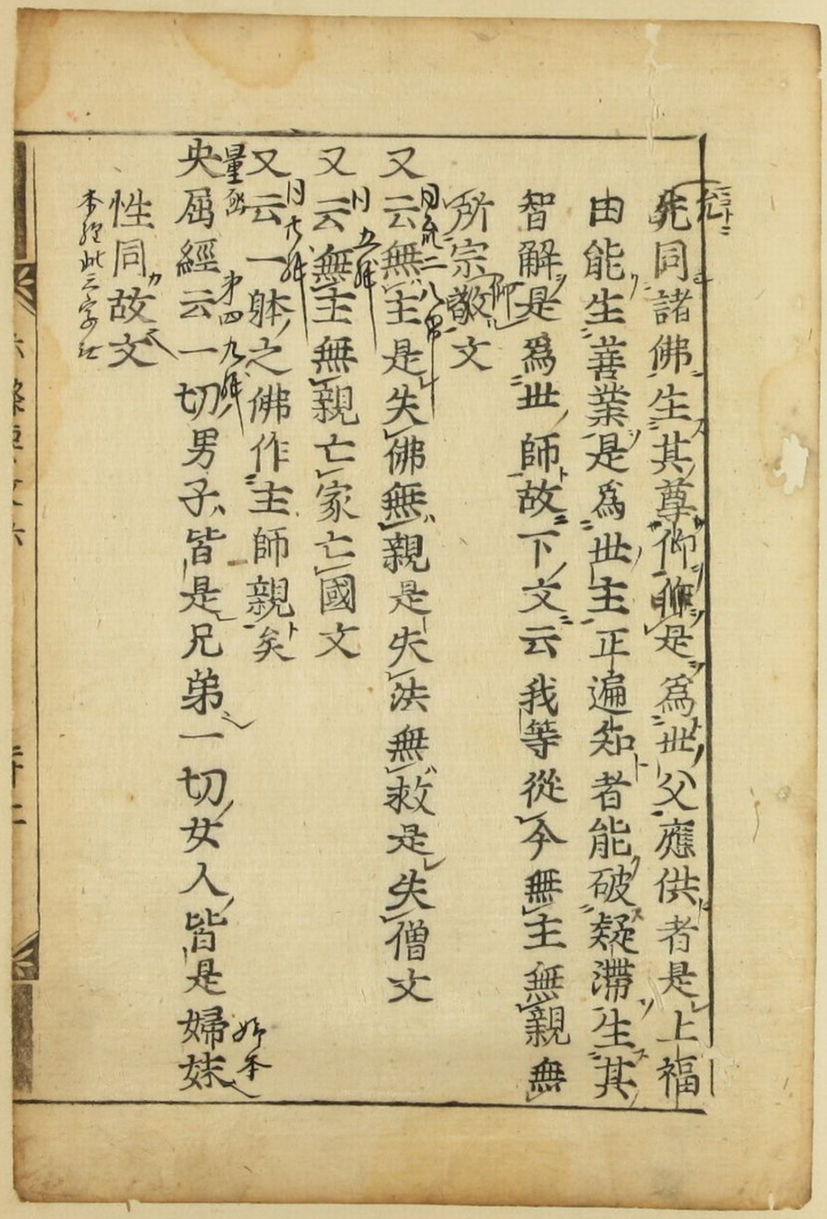
得本は稀れの板です、

欲毒有無迷情頓息一家大旨何所疑哉二諦下正判位次一切衆生有佛性者因不名佛果不名性但槃經中多云佛性者佛是果人言一切衆生皆有果人之性也所以因名佛性者衆生實未成佛得理證眞以煩惱生死是佛等性示令修習名佛性焉佛性有三所謂三千即空假中名正緣了故知三千不出十界三種世間假名五陰在於有情國土世間名為無情若云無情不云有性若云有性不云無情今欲示迷元從性變及為示性令其改迷點權為實故云有情無情有性是故十界三種世間即空假中是三

周減縁二十四周減行矣　付之四教義五云中
忍十番縮觀矣　玄八云三番縮觀進成上忍世第一
法矣　答三番者八諦共ニ有ル三行相一故ニ八諦
類通ノ三番ト云也次十番ト者七周減縁ニ加テ三番縮
觀ヲ名ニ十番ト歟但光師ハ三周減行ヲバ古德ノ義ト釋セリ
若爾者一家ノ釋モ擧ト他ノ釋一可レ得レ意歟光二十三
云ヲ古德解云於テ八諦ノ中ニ減ニ七諦名ニ七周減縁ト
於ニ欲ノ苦諦一減ニ三行一名ニ三周減行ト七周減縁此レ
亦可レ然三周減行此即不レ爾矣　授決集下云初七
周減縁次二十四周減行減縁者減除所縁四縁減
行者能縁十六行揔言三周減行別言二十四周減

二一、天台名目類聚鈔　古活字版

完本は七巻九冊、配布の零葉は巻第三の内です。
元和四年に比叡山に於て開板された所謂叡山版の一種で、凡カナ細字の訓點が
ついて居る活版である事に注意されます。



先同諸佛生其尊仰是爲世父應供者是上福
由能生善業是爲世主正遍知者能破疑滯生其
智解是爲世師故下文云我等從今無主無親無
所宗敬文
又云無主是失佛無親是失法無救是失僧文
又云無主無親亡家亡國文
又云一躰之佛作主師親矣
央屬經云一切男子皆是兄弟一切女人皆是婦妹
性同故文

二二、新撰肝心要文

古活字版

完本は大巻三冊、甄布の零葉は巻第六の内です。
第六巻末の刊記は

下立賣百鶴西二町目
寛永四年丁卯十一月吉日

とあります。寛永初期の坊刻仏書の一種です。

刊木屋長兵衛

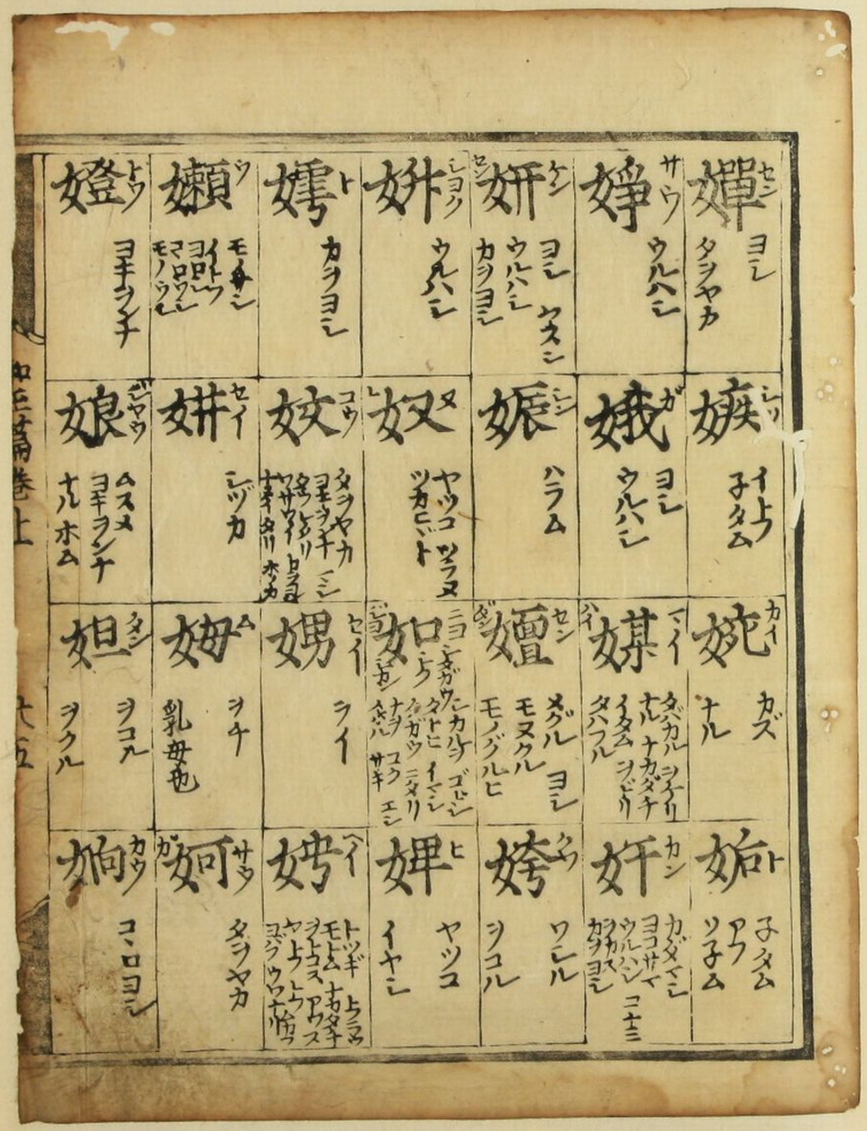
二三、聚分韻略　慶長十七年刊

完本は一巻一冊、刊記は左の如くです。

慶長十七年壬子春吉長

慶長壬子は十七年に當り當時の刊行と認められます。聚分韻略は古版本多く、いづれも整版本でありますが、室町時代の中期又はそれ以前に出来たものは多く大形本であり、同本期以後慶長元和頃刊行のものは多く本書に見るが如き小形本であります。後者の先驅をなすものは天文八年刊の大内版、天文廿三年刊の駿河版と思はれます。

昭和十二年の東都某古書肆の目録に三十五円とあります。



二四　倭玉篇　慶長十五年刊

完本は三巻三冊、配布の零本は巻上です。

倭玉篇は実用書で當時需要が多く、又その需要に従つて刷り出して貰られたものか、當時のものとしても現存本の最も多い者は人の知る通りです。殊に慶長十五年版と同十八年の傳本が多いですが、此の書がそのソヅれに属するのは、明かでありません。多分十五年版だらうと考へます。

人倫
李堯夫畫佛像　李龍眼畫工　李安忠畫工　緑珠石崇妾也
陸脩靜　柳下惠　柳子厚　龍顔帝云　律僧力者
梁楷宋朝畫工　陸探微宋朝得佛像也　李夫人漢武帝夫人也有迎魂香之故事

氣形
龍腦　龍骨　驪龍頷下有珠　栗鼠　龍虎　龍神　龍王

草木
緑樹夏木　柳絮　林禽　利木花　良香　龍膽

食服
緑醑　緑醅美酒　龍焙茶名　靈供　領袖　輪衣之

器物
輪寶　菱花臺　涼轎乘輪物　車輔繪畫　龍骨車

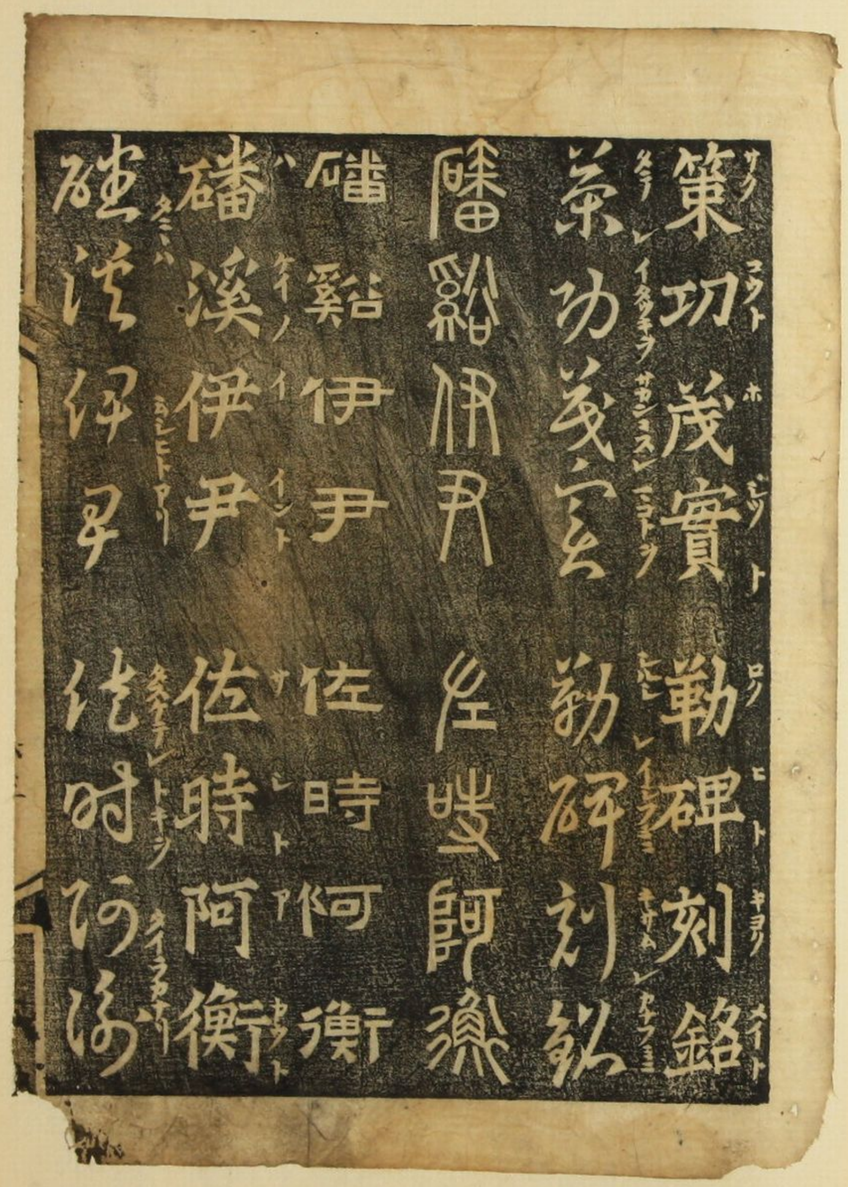
二五、易林本節用集

完本は二巻二冊、配布の零本は上巻です。節用集は室町時代から江戸時代迄に広く用ひられた通俗的な辞書として知られ、その版本としては古く鱗頭屋本（横本）天正十八年刊本等があり、慶長元和中にも六七種も出版されて居ります が、その中最も有名なものは易林本節用集であります。その奥書は

有客請鉅卷曰……以返之云旨慶長二酉易林誌

とあつて一般に慶長二年の刊本と見做されて居ります。易林本節用集は最終の頁に「洛陽七條寺内平井縣左衛門休與開板」と云ふ陰刻のあるものとないものとがあります。そのいづれが先出であるかは明かでなく、配布の零本がそのいづれに属するかも不明であります。

昭和十年東京某書肆の目録に百五十円と賣って居ります。



二八、四体千字文　慶長十二年刊

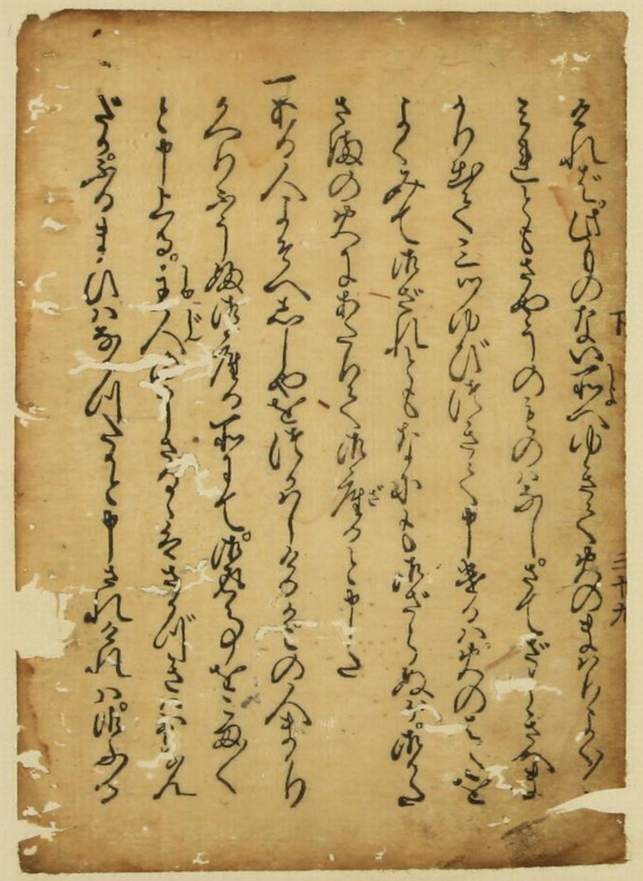
覆本は一巻一冊、巻末に左の刊記あり

慶長丙午歳　春枝閑板

丙午は慶長十一年に当ります。春枝は慶長半ば以後に幾種かの書物を発行して居る書肆であります。

千字文はこれより前、天正二年に堺で印行されたものが我国では最も古い出版で、同じく四体の文字を並べて居りますが、版式は本書とは全く別でモット整斉した感じであります。

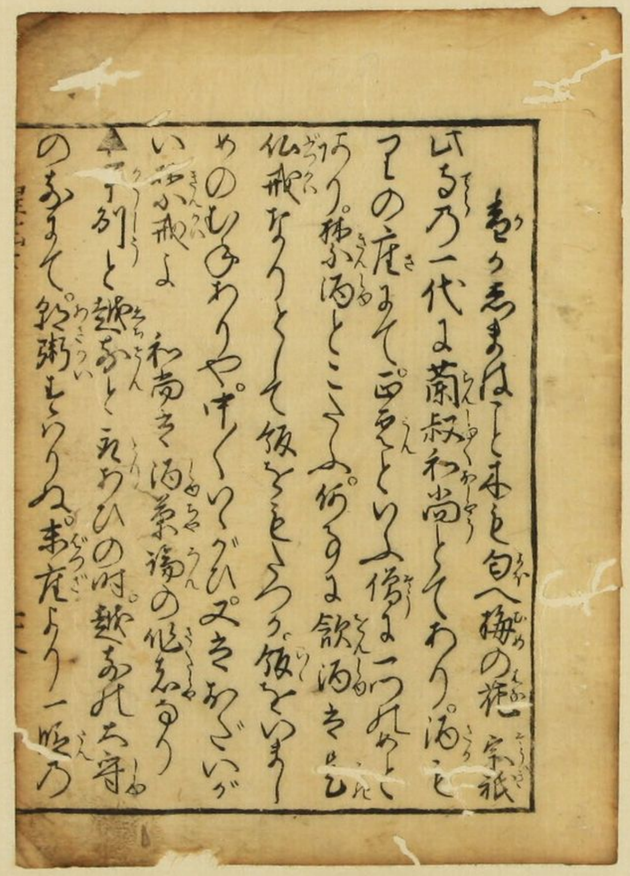
此の春枝閑板のものは板が永く残って居たものか後摺と思はれる覆本も多く、値段も比較的安い様です。



二七、昨日は今日の物語　町ノ本

完本は上下二冊、配本の零本は巻の下です。笑話集としては慶長年間刊行の戯言養気集（古活字版二冊、数年前北田文庫の入札に下巻一冊百五十円にて落札）を最古の版本として「昨日は今日の物語」はこれについで古く既に慶長元和の交に活字版として出版されました。整版本としては寛永十三年開板のものが最も古く、その後も数種出来て居ります。配布のものは巻末に落丁がありますので正確には判りませんが、その版式から見て多分右の寛永十三年版でせう。あくまでも明暦以後のものでないと考へられます。

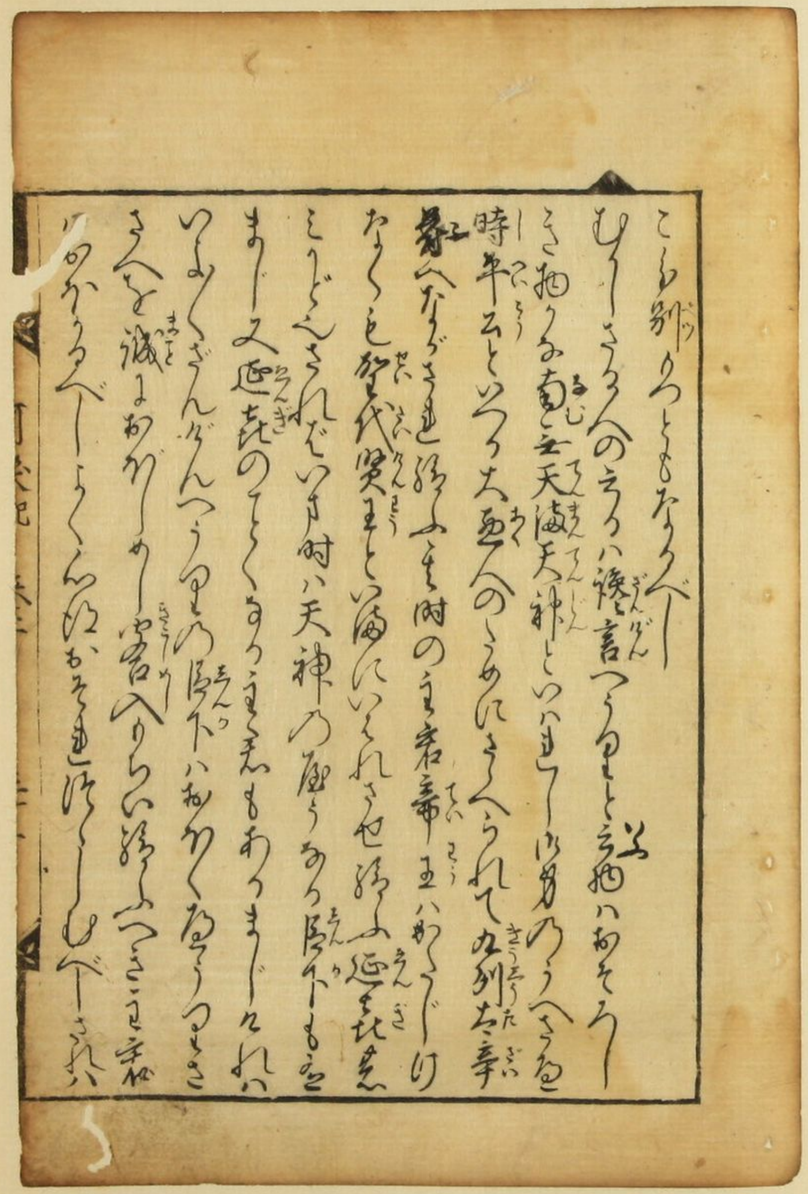
相場は三四十円のものでせう。



二八、醒醒笑　出之本

完成は八巻を上中下の三冊にまとめ、配布の零葉はその下巻の内であります。

近世初期に於ける笑話集としては、「醒言養集集」「昨日は今日の物語」等と共に最も古いものゝ一で有名ですが、版行はその二者よりやゝ遅く、寛永頃の版からあります。以後引きつゞいて大本中本等数版出来ましたが、これは無刊記本ですが多分慶安年中の版行になるものでせう。



二九、可笑記　假名草子

完本は五冊、配布の零本は巻の二です。

「可笑記」の繪入本しありますが、これは繪なしの大本です。

此の寺の本は寛永十九年版とその復刻の寛文頃の版本と二種あり、これは多分寛永版であらうと考へられます。

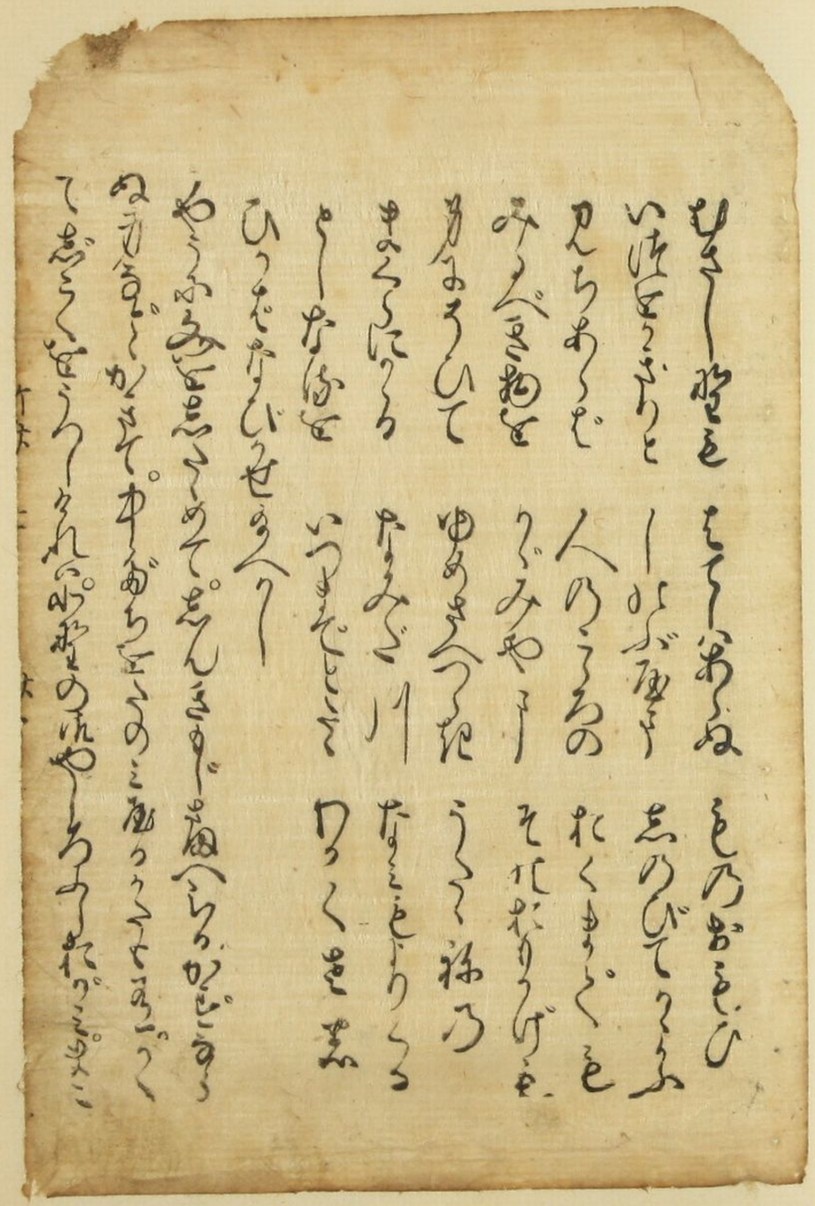
昭和十一年二月刊の淺倉屋書目に二十五円とのつて居ります。

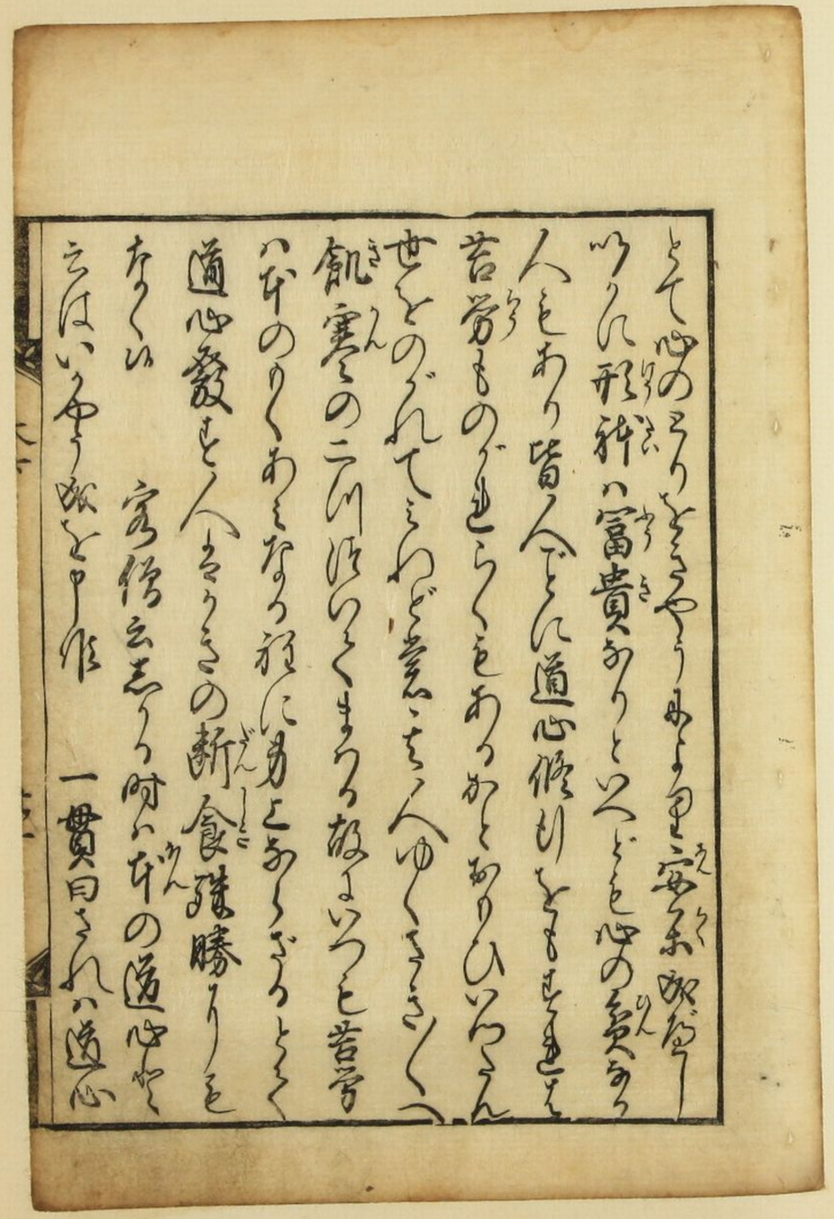
三〇、可笑記

完本は五巻五冊、配布の零本は巻の四です。
版式から見て本書は多分慶治二年の刊本でせう。古雅な繪入の感じのよい冊子です。
可笑記は假名草子中では比較的着名なもの〻一で、古くから割合に広く讀まれました。文學的な價値は左程高くないものでせうか、文学史的な價値は割合に大きく、江戸俗文学の開祖など〻云ふ人さへある程であります。
今日では三四十円の相場ものでせう。

三一、竹齋　假名草子

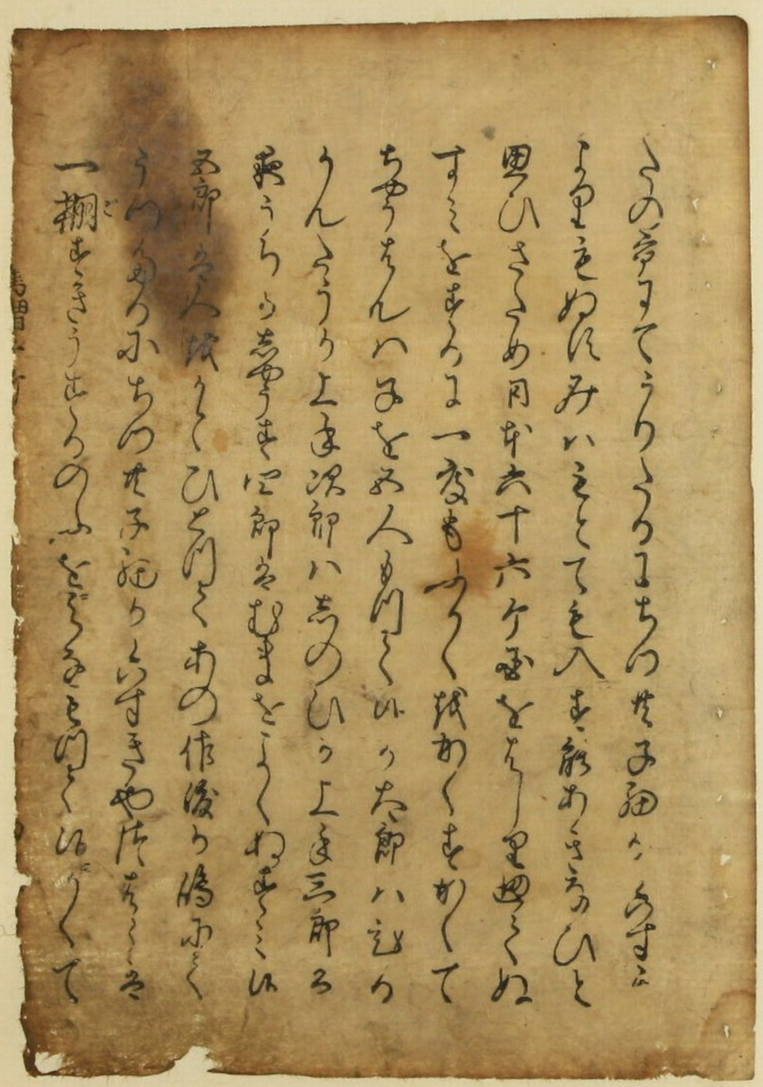
完本は上下二冊、配布の零本は上巻です。
刊行は寛永中と信じられて居ります。烏丸光広卿の作で、竹齋と云ふ藪医者を主人公にした滑稽小説で、當時非常にもてはやされて数種の異版が出来、又模倣もいくつも出来ました。
近世初期刊行の数多くの假名草子中の代表作の一つであります。
概って六七十円位のものでせうか。





三二、大佛物語　假名草子

完本は上下二卷二册、配布の零本は下卷です。
卷末の刊記は　　寛永十九年春春吉日
とあります。假名草子としては比較的刊行のおいものですが、内容は教訓的なもので文学的價値の高いものとは云へません。
小説年表の類では册數を誤って一册としてゐます。
佐村氏の「圖書解題」には寛永廿一年版を初出の如くしるしてゐますが、初刊は本書で翌二十年に再版、翌々二十一年に三版が出て居ります。



三三、烏帽子折　丹緑本

完本は二巻二冊、配布の零本は上巻又は下巻です。
「烏帽子折」は舞の本の一種であり、近世初期に流行した仮名草子の一種で、
版本も数種あります。此の配布のものは刊年は不明ですが、多分寛文前後のも
のでせう。
相場は三四十円のものと思はれます。

三四、伽婢子　仮名草子

完本は十三巻十三冊、配布の零葉は巻第十三です。刊年は寛文六年であります。

近世初期の著名な仮名草子作家浅井了意の筆になり、支那の「剪燈新話」の翻案ものが可成多くの部分を占める怪談小説集で、近世近藤文上に於ける所謂怪談物の先駆とも祖とも云ふべき着として知られてゐます。市價はその割には高くない様です。

三五、京童　古版地誌

完本は大巻大冊、配布の零本は巻の二です。　明暦四年の刊行で京都の地誌としては最古のもの〻一に属します。著者は同種のものいくつかの著作をなしてゐる事で有名な中川喜雲で、挿画は吉田半兵衛あたりの筆と云はれて居ります。「京童」には「古版地誌類纂」に載せられたものだけで三種あるのですが、何れも同板本で刷つて居ります。

昭和二年護国文庫の入札には百貳拾円で落札されました。昭和三年杉本梁江堂の目録には二百五十円とあり、昭和九年の廣田松雲堂の目録には百五十円とあり、同年五月の村口書房の目録には七十五円とあります。保存の良否による差違もあるのでせう。

三六、江戸名所記　古版地誌

完本は七巻七冊、配布の零本は巻第三です。刊年は寛文二年になつて居ります。近世初期の著名な仮名草子作家浅井了意の撰著にかゝり、江戸の地誌名所記の嚆矢で、やゝ体裁のとゝのつたものとしては、最古のものとして著名であります。記事も割合に詳細で、神社が多く、古き江戸の姿を知る上で有用な資料です。希書復製会今期復製予定本。昭和十二年の東都某古書肆の目録に百八十円とあり、十三年十一月の富田淺山翁の蔵書入札会では百二十円で落札されました。

三七　一目玉鉾

浪華堂蔵版
西鶴本

完本は四巻四冊、配布の零本は巻の四です。
初版の刊行は元禄二年で大阪で二版出来、享保中に江戸で再版が出来ました。
配布の零本は初版でその刊記は

元禄二年己丑月吉日
大阪高麗橋心斎橋筋南入町　油金屋庄左衛門板

とあるものであります。
内容は地誌兼文藝的旅行案内記で、よく申せば趣味と實用とを兼ねたもの、悪く云へばドッサつかずのもので、西鶴の作品としては異色あるものではありますが名作ではありません。
昔っては二三百円の賣價迄唱へて居りましたが今では百円程でせう。

書中ニ日本國源義教稱ス
同六年己寅五月唐船來ル
同八年丙辰六月遣明使歸朝ス
嘉吉元年辛酉逆臣赤松左馬助朝鮮逃行
同二年壬戌源義勝被任將軍同三年癸亥五月朝
鮮使來朝管領畠山入道德本曰是朝鮮真ノ使タ
ルベカラズ彼國商者事貢職寄セテ商賈爲來ナラ
ン今將軍幼稚也諸國是爲奔走費更益无トテ兵
庫津ヨリ是本國ニ歸サントス朝鮮使答テ曰是
全商賈ノ爲ニ來ル者非ス前將軍義教公ノ逝去

三八、異國往來記

完本は上下二冊、配布の零本は下卷、刊年は元禄九年であります。

内容は國初以來元和二年に至る我が國と諸外國との交渉を、六國史以下の國書に徵して論述したもので、彼の松下見林の異稱日本傳などと共に一種の外交史としては最古版の一に屬します。但し見林の著は支那の古典籍に徵と求めたものですから、材料の点から申せば表裏の関係をなすと云へましょう。

今日の眼から見れば内容は價値の少いものですが、原本が稀少なので相當の高價を維持して居ます。

三九、武家義理物語　浮世草子　西鶴作

見本は六冊、配布の原本は巻の四です。

刊年は「日本永代蔵」と同年の貞享五年（元禄元年）でして孝文の末に西鶴の別号である「鶴永」「松寿」の印がありますから明かに西鶴作とされて居ます。

挿絵は吉田半兵衛筆です。

内容は書名の通り武士道の義理をあらはした堅い話で、歴代の武士の理想的典型を描寫して居て「武道傳来記」と共に単に所謂武家物の代表作であるのみならず、ひろく西鶴の全著作を通じて重要なものゝ一です。

昭和三年四月の天均居の入札会では五百余円で落札されました。

四〇、好色訓蒙圖彙　浮世草子

完本は三巻三冊、記者の蔵本は上巻であります、朝倉氏の小説年表、水谷氏の古版小説挿絵史等には貞享二年刊としてありますが、本書の序文の末に

時や貞享二年弥生中の五日

洛下の野人作書於色町二白居士　みつから考

としてありますから貞享二年の刊行とすべきでせう。著者無色町二白は吉田半兵衛の筆名であらうと信じられて居り、挿絵は扉に　絵師　洛陽吉田半兵衛圖

と明記して居りますから、本書は半兵衛の自作自画として知られてゐます。絵としては半兵衛の最盛期の名作で豊麗艶美を極めてゐます。内容は好色の對象としての婦女の各種を集めてその絵姿を掲げ、次に簡単な説明を附したもので一種の辞典的な性質のものです。小説年表の類ではいづれも浮世草子の部類に入れてゐますが、小説らしい筋の發展は少しもないもので、寧ろ風俗辞典（挿絵入りの）と呼ぶべきでせう。

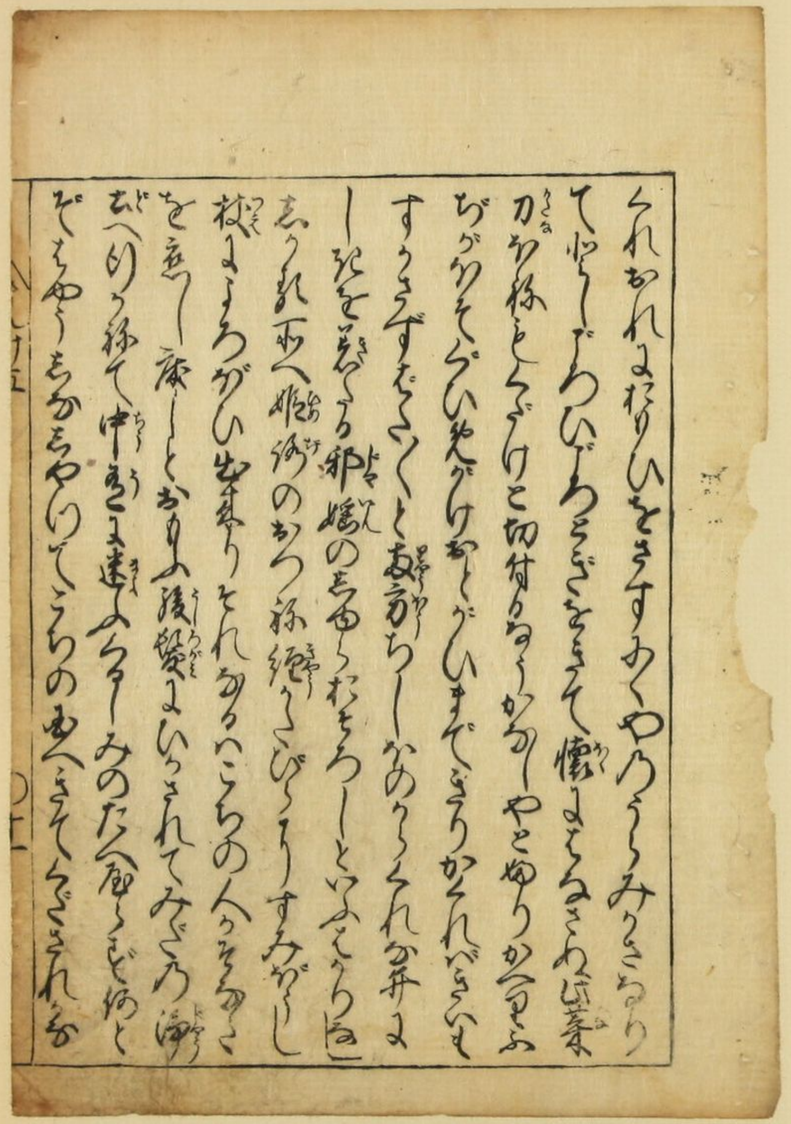
完本は極めて稀覯で市場へ出た事を聞きません。二二百円位のものでせうか。

四一、色道鼠寝枕　浮世草子

完本は三巻三冊、記市の零本は下巻です。

寛永年中刊行の「恋慰色遊懐男」（五冊）の流行につれて刊行された所謂「豆男もの」の一種で、浮世草子の部類、八文字屋本の一種ですが、又自ら情緒の一群をなすものであります。本書はその中でも内容の比較的低級なもので、猶寓意が露骨で不潔的なのが目立ちます。

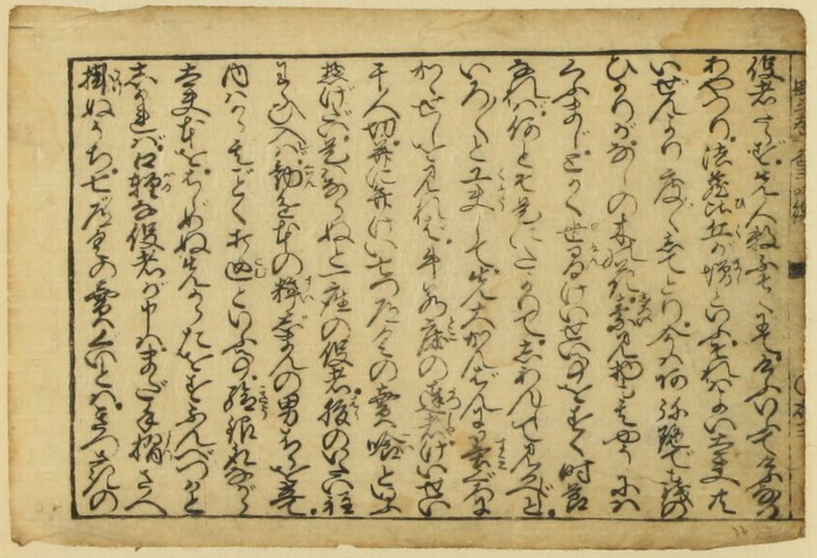
朝倉、山崎両氏の二種の「小説年表」に本書の名を挙げて「恋慰色遊懐男」の改題本としてありますのは多分誤りで、内容は別のものゝ様であります。



四二、色道鑑　悔男　浮世草子

完本は六巻六冊、配布の際は巻の四又は五です。刊年は宝永四年、着看は暮故寸張算であります。

西鶴没後数年の作ですが、級の名作の影響の多い事は此の書の体裁神祭などにもよく窺はれます。但し内容は俳散的色彩が相当濃くなってゐて、着看が坊さんではなかったかを想像せしめます。



四三、傾城色三味線

浮世草子
八文字屋本

完本は五巻五冊、配布の零本は鄙の巻で帯四巻にあたります。

刊年は元禄十四年、刊行者は八文字屋八左衛門です。著者は江島其磧と認められてゐます。其磧を中心にした数多くの浮世草子（所謂八文字屋本）の嚆矢と云ふべき重要著作であるのみならず、内容も文学的價値の高い名作であります。

完本の市場に出たのを多く耳にしませんが二三百圓の價値は充分にあるものでせう。

四四、義經風流鑑　八文字屋本

完本は五巻五冊、題簽の零本は巻五です。

元禄正徳五年に八文字屋が書肆の共版と盛昨しつゝある最中に刊行した廣本ものですが、此處に分けましたものは、その後約五十年を經て親子四代にわたって榮えた大出版書肆八文字屋も四代目瑞笑を以て跡が絶えて、その出版物を全部大阪の升屋大藏に讓った後升屋が再習した後摺本です。刊行は明和四年になつて居ります。（瑞笑の死んだのは明和三年です。　江戸文學史上特筆大書さるゝ八文字屋本も之を以て終りとなると云ふ意味で興味があります。

価値は初摺本よりは幾らか安い事は当然でせう。

四五、遊興新平家物語　浮世草子

完本は八巻八冊、眠布の零葉は巻第二の内です。刊年は元禄十六年であります。書名の示す通り、平家物語を翻案して、舞台を當時にし、主人公を商人と成め、その好色の生涯をしるしたものでで、作者は大阪の一茶子と云ふ人になってゐます。所謂西鶴の一派流と云へば云へるものでせう。

近年完本の市場に出た事をきかぬ様です。古く昭和二年の霞亭文庫の入札会では百二十八円で落札されました。

四六、今川當世狀　浮世草子

完本は六卷六冊、配布の零本は卷の五です。

刊年は正德三年になつて居ります。本書の題名は有名な今川了俊の「今川狀」にとつてこれを当時の流行に從つて當世化し浮世草子化したものでせうが、著者は不明であります。其頃、自笑寺と共に西鶴の流れを汲む作家の一人なのでせう。

完本で三四十円のものと考へられます。

四七、役者胎内捜　役者評判記

完本は三巻三冊（京の巻、大阪の巻、江戸の巻の三冊）配布の零本は京の巻です。

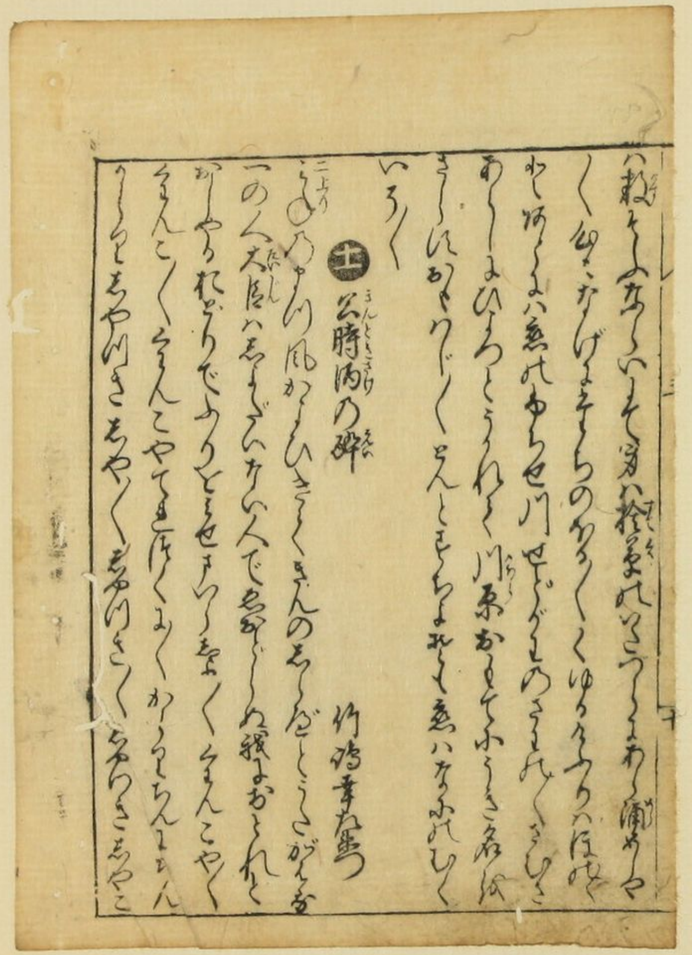
巻末の刊記は

宝永六年五三月吉日

ふや町通せいぐわんじ下る町　八文字屋八左衛門板

とありますから、宝永六年の八文字屋版です。役者評判記としてはやゝ古い方の部類に属し、挿絵もかなりよいです。

完本で三四十円のもりでせう。

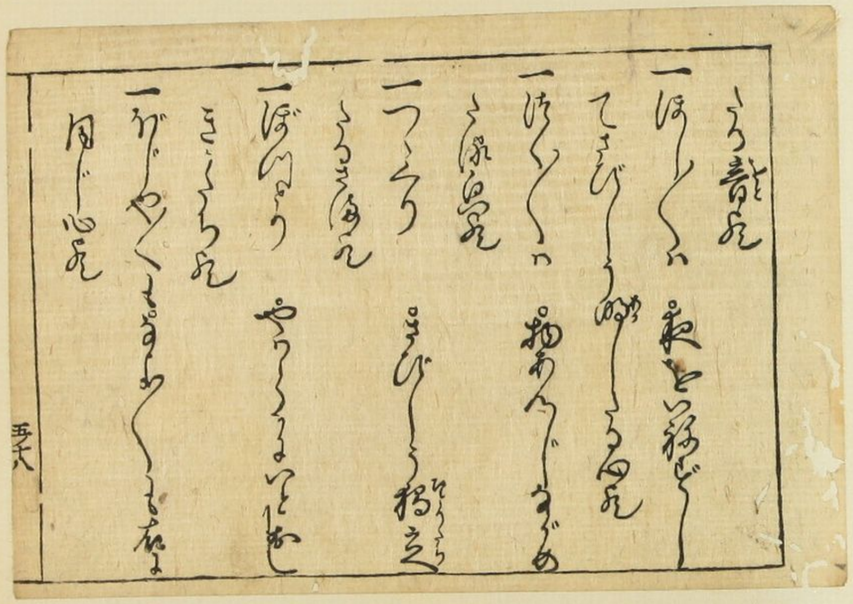


四八、松の落葉　古版歌謡書

完本は六巻六冊、配而の零本は巻の五です。

刊年は宝永七年、書林ねつゝや庄兵衛、万木治兵衛の刊行になつて居ります。

元禄版の「松の葉」の續篇として世に出たもので、徳川中期の歌謡集中の代表的なものゝ一で絵入になつて居るのが特徴です。内容は重に三味線歌だといふ事です。松の葉よりは一層特觀ですから値段もその上てせう。



四九、片言　寛安版

完本は五巻五冊、配布の零本は巻第五です。刊年は寛安三年であります。

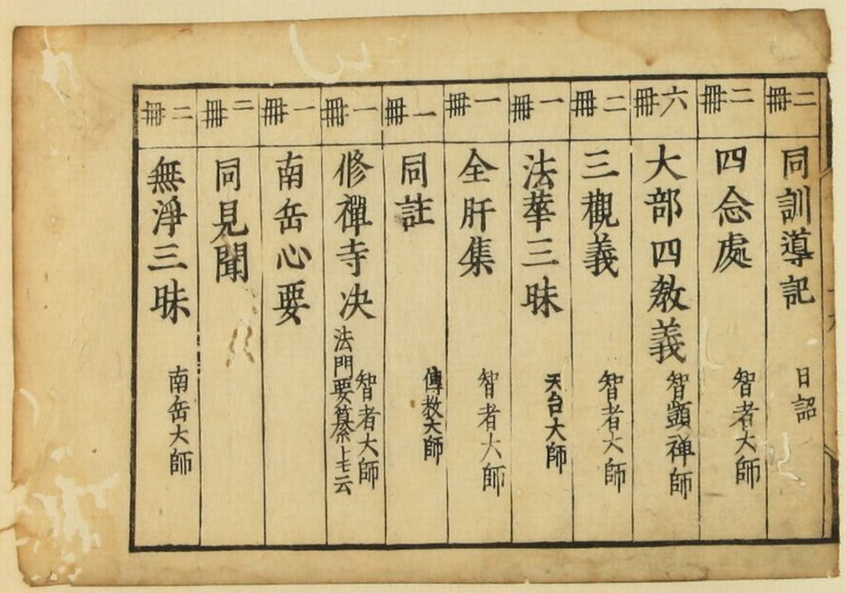
方言の事をしるした最古の版本として知られてゐます。著者は安藤良室（桂氣

貞德の門人で俳人）で、その愛兒に正しい言語の知識を與へる事を目的として

著はされたものであります。近世の初期に連歌俳諧の士によって傳誦されたい

くつかの國語學書中、最も有名でもあり學問的にも優秀なものです。

昭和十二年東都某古書肆の目錄に二十円の價値を附してゐます。



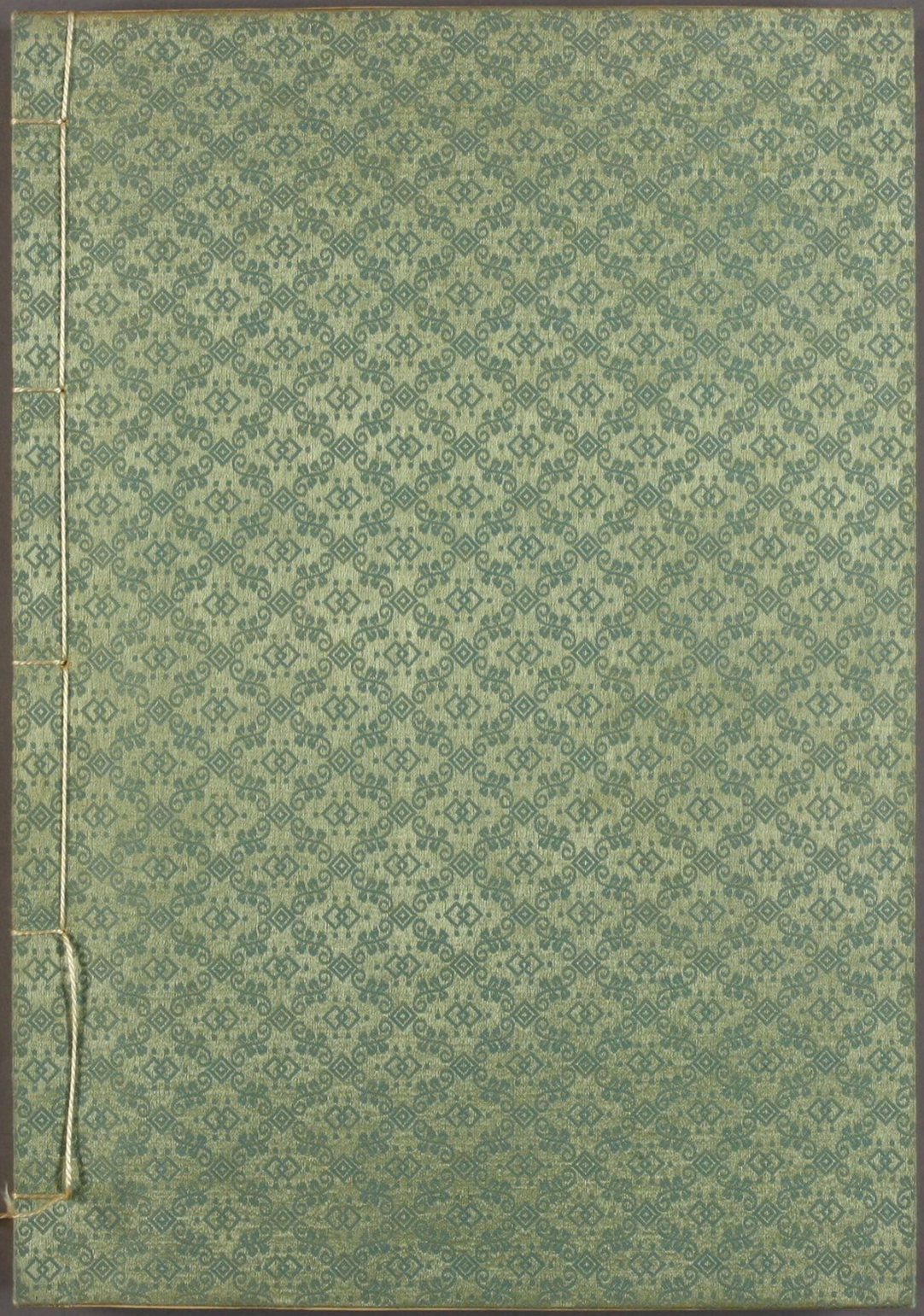
二冊	同訓導記	日詔
二冊	四念處	智者大師
六冊	大部四教義	智顗禪師
二冊	三觀義	智者大師
一冊	法華三昧	天台大師
一冊	全肝集	智者大師
一冊	同註	傳教大師
一冊	修禪寺決	智者大師 法門要禁上モ云
一冊	南岳心要	
二冊	同見聞	
二冊	無淨三昧	南岳大師

五〇、增補書籍目錄　古版書目

寛永は二巻二冊、配布の零本は巻の二です。刊年は上巻冬頭の總目錄の終りに

寛文十歳戊辰秋吉旦

江戸本町三丁目　西村又右衛門

京寺町妙顯寺前　西村又右衛門

とありますので、寛文十年の刊行である事は明かであります。年号の明記してある最古の出版書籍目錄として尊ぶべきものであります。（尤も徳類に增補書籍目錄とあるので解る通り、之より以前に增補でない書籍目錄が出て居つた事は想像されます、それは万治の初年頃と寛文九年頃のものと二つが存在してゐますが、いずれも刊記がなく八ツキリした刊行年代は不明なのであります）記載の体裁も古風です。昭和八年の文行堂の目錄に三十五円と載つてゐます。